

カラタチバナ	<i>Ardisia crispa</i> (Thunb.) A.DC.	準絶滅危惧
		ヤブコウジ科
選定理由	分布が限られており、開発による圧迫が考えられる。	<p>写真(古田之子)</p> 
形態の特徴	常緑低木で分枝しない。葉は互生し長楕円形、縁に低い波状歯があり、先が長く尖る。花序は鱗片葉又は葉の脇より生ずる柄に散形に付き、果実は赤熟する。花期は7月頃である。	
生態的特徴	山地の常緑樹林下に見られる。	
分布状況	本州の千葉、富山以西、四国、九州に分布し、岐阜県においては美濃地方の西部、中部、東部の一部にみられる。	
減少要因	自生地が県南部の低山地に限られており、開発による自生地の圧迫が減少の要因と考えられる。	
保全対策	山地開発の事前調査を慎重に行い、自生環境の保全を図る。	
特記事項	開発に際しては慎重に協議する。	
参考文献	平凡社:日本の野生植物 保育社:原色日本植物図鑑	

文責:古田之子